



春と冬のせめぎ合いがようやく終わり、春たけなわの頃となりました。校舎に生徒の活気が溢れる中、光塩女子学院中・高等科でも2013年度の年度初めの行事が目白押しです。神様の特別なお計らいで呼び集められた私たちが、光塩で出逢えたことはまさに“奇跡”といえます。

今年度の目標は、“共に生かされている私”としました。

“光と塩”の精神をさらに一歩進めていくため、自分が生かされている現実を受け止める必要があると思います。

詩人 八木重吉の短い詩を味わってみて下さい。

### 桃子と陽二

私はお前達を見ずにいるのが辛い

私はお前達の父であったことが

誰の父であったよりも嬉しい

桃子と陽二は、重吉にとって何ものにも代え難い存在です。子どもたちは、父重吉の愛によって生かされ、また、重吉も、桃子と陽二の存在によって生かされているのです。

“共に生かされている私”を実感するため、学期ごとの身近なテーマを決めました。1学期は、他者へ心を開くよう、「心をこめて 挨拶を」です。挨拶は他者の存在を認め、受け入れる心から湧き出てきます。気持ちよく、声を出して、笑顔で挨拶する、人が挨拶してくれるのを待つのではなく、自分からの声掛けを大切にします。2学期は、自分自身を知り自己肯定感をしっかり身につけるため、「信じよう 自分の力」とします。自分のよいものを知り、力を発揮していく過程で、自分の存在意義を見つけられると思います。3学期は、広く社会に心を開くよう、「伝えよう 感謝の心」です。私の幸せを他の人に分け与える気持ちが、ノーブルス・オブリージュ“光塩生としての誇り”に繋がります。

他者から生かされていることに感謝し、自分も他者を生かしていることを確認しながら、“世の光・地の塩”を深めていく1年でありますように。